

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動をノ

'82年9月来館者数	2,880名
通算1カ月平均来館者数	4,136名
当月1日平均来館者数	111名
通算来館者数	306,048名

反戦・反核の時代に生きて しっかりと世界観をもつ意味

第五福竜丸平和協会評議員 秋月 辰一郎

原爆災害の実態を、人々に知ってもらおうことが反核、世界平和の原点と信じているのに、広島や長崎においてさへ、学校の教科書から原爆の記載が消えてゆく。

中学や高校の歴史、社会の教科書の中で次々に字句が訂正されてきた。これまで、それとなく陰びに進んでいた事が俄かにうるたえて国民の前に出て来た。しかも他の国からの強い抗議によってである。

原爆の記事、戦争中の大陸や南方での日本軍の行動を記して後世に伝えることが、いつの間にか変わるということを考えねばならない。

国民が何も知らない間に、いつの間にか歴史が方向をかえる。方向を変えさせるものは怖いが、いつの間にか変ってしまう国民

皇国史観が元凶と想っていたが、それに追隨する史観の確固たるものがない日本人が、何としたものかと思う。狭いが美るわしい住みよい国土環境、勤勉で情操のある国民が何故あつたか考えている。

今でもTVの人気番組は、太閤記と忠臣蔵である。勿論、秀吉や大石良雄は素晴らしい人物である。が余りに日本の狭い縦割りの組織の中の活躍である。権力者の方向づけも怖いが国民もしっかりと世界観をもとう。侵略にかりたてる原爆に、国民をみなごろしにしても尚、戦って守るべきものは一体何であるのか、その方向を間違っているのである。

(聖フランシスコ病院院長)

長崎市



カナダで広田さんをしのぶ

サラフ教授との交流 山崎 元

「ミスター・ヒロタの死が悲しい」
思いがけないときに広田重道氏の名が出た。モントリオールと並んでカナダ最大の都市トロントの住宅街の一角。トロント大学で数学を教えるステファン・サラフ氏のダイニング・ルーム。

レーガンによって国連訪問のビザを拒否された日本原水協代表二〇三名は、手分けしてロンドン・ボン・カナダ各地へ世界の反核・平和運動との連帯をもとめて旅に出た。カナダへは八十一名。その日程の中で六月十二日・日曜日の夜、私をふくめた四名の代表がサラフ教授の夕食会に招かれた。この日ちょうど南へ五百キロはなれたニューヨークで、あの百万人反核集会が開かれていてカナダからも四千五百人参加していた。この時季カナダの日没はおそく夜は短かい。どこか家庭もおそく夕餉がはじまる。原水禁世界大会になんども来日したという社会学者のサ

ラフ夫人は、東南アジアへ旅行中で留守。小学四年の娘さんがホステス。禁酒家のうえに菜食主義のサラフ教授はやもめぐらしに馴れた手つきの料理でもてなしてくれた。

ニンニクや香辛料の匂いが立ちこめていて、大鍋いっぱい野菜のため風と煮た麦飯、それに測ったように刻んだ賽の目のチーズときゅうりの合せ皿とが、赤や黄や緑の色どりを添えて食卓を飾っていた。はっかの味の冷えたミントのお茶が飲みもの。「ミスター・ヒロタ」の名が出たのは、その神秘的なメニューに最初の箸をつけようとしたときだった。

「妻だけでなく私もいちど広島へ行った。ミスター・ヒロタとそこで知り合った。いつも親切にしてくれた。ミスター・ヒロタは死の直前まで海を越えてカナダに、核問題や反核運動の資料を届けてくれた。私は彼のおかげで雑誌論文やパンフレットを書いて広くカ

ナダの人々にヒロシマ・ナガサキ・ビキニのことを知らせることができた。」

「ミスター・ヒロタは第五福竜丸の守り神。カナダの西海岸にもビキニ水爆実験で被災した多くの漁船と船員がいた。」

夕食前まで数学、夕食後は核問題の勉強がサラフ教授の日課。広田さんからの資料をもとに、広島への原爆投下を誇示して英雄気取りアメリカ航空産業の重役におさまっている「エノラゲイ」の機長ティベツツの批判を、つぎに書くという。

六月なかばといえは広田さんが急逝して二カ月と経っていない。東京信濃町での葬儀に列席した私は、そのときの模様をサラフ氏に話したうえで、こう付け加えた。

「広田さんは戦後の平和運動家として立派だっただけではない。実に五十年も前から戦前日本の暗黒時代にあって、反戦・平和と政治変革の運動を続けてこられた。何回も逮捕され投獄された。しかし屈することなく、未来を信じて耐えてきた。そして戦後反核・平和と文化運動に献身された。今日立派に保存された第五福竜丸にすで

に三十万人を越す民衆が訪れている。そしてむかし獄窓で夢にまでみた政治革新のどよめきを、いま愛娘岩佐恵美を国会に送って託している。——」

サラフ氏も箸を置いたまま。眼に光るものがみえた。広田さんが半世紀以上も体現した平和運動と政治革新の結合——、深く彼の心をとらえたようだ。いまカナダでは真の革新政党が非合法化されている。トロントやバンクーバーで二万人、三万人の大集会が開かれていて、アメリカ国境沿いに燃え上る反核運動。しかし各分野の運動を統一し、斗いの道標となる前衛の姿をまだカナダ民衆は眼にしつけないし、議会内外の運動を結びつける前衛の力をまだ公然と手にしていない。

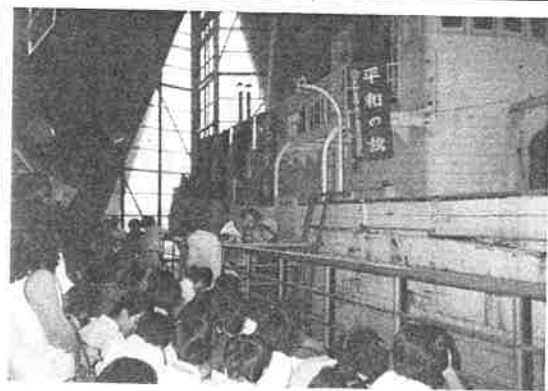
「よい話を聴かせてくれた。ミスター・ヒロタを決して忘れない」
食卓の上のものは冷めてしまっただが、食卓を囲む互いの胸の中はいつまでも熱かった。

(国立国会図書館司書)



九・二三久保山愛吉氏追悼のつどい 多彩に——マゲロを賞味しつつ交流も

今年の九・二三には雨。展示館には降りしきる風雨の中、つぎからつぎへと人が訪れ、久保山愛吉さんの記念碑にりんどう・菊の花などをそえ、核兵器廃絶への誓いをあらたにしました。今年二回目の久保山忌俳句会に参加する新俳句人連盟など、



約三〇名の人びとは十時すぎから句題を求めて展示館を見学、ボロボロの船内、船艙のいたみに句作への鋭い目をそそぎ一時から東陽町の文化センターで句会。主催者の一つである協会も代表がガイガーカーンター、大漁旗、写真パネルを持って参加、あいさつをしました。

一時すぎからは、平和と軍縮をめざす全国連絡会の学生、青年を中心に、館内で「九・二三久保山愛吉さんを追悼する平和のつどい」を開催。約二百人の人びとが館の二階のデッキを埋め、報告者は船の甲板にのぼり船をいたわりつつ演説するといふ久しぶりの「館内集会」。ひきつづく国連軍縮週間への活動強化など論議されました。

四時展示館閉館後は、句会とつどいに参加した人々を中心に江東文化センターで交流会。日

本ビデオ・映画制作所の好意による一九五四年の日映ニュース「焼津帰港の福竜丸、久保山さん逝去、漁民葬などのフィルムが上映され、地元の東建従のみなさんの心づくしによるマゲロのおさしみを囲んで今後の運動に

展示館の充実に全力を集中

理事会・評議員会合同会議ひらく

平和協会第五一回理事会が九月二十九日学士会館で開かれ、今回は評議員会との合同会議で、三宅泰雄、楡山義夫、齊藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美の各理事のほか、石井あや子、小笠原英三郎、小野周、服部学、三井周二の各評議員と句人の浅野道風さんが参加。三時間余にわたり、当面の活動、展示館の充実への対策など、議論しました。八月に通算三〇万人を越えた見学者の増加に対応し、いつも新鮮で生きいきとした展示館を作りあげていくため、いま何が求められているかを日常的に検討しあい、英知を集めて展示内容の改善充実をはかっていくことが何よりも急務になっていくことが指摘され、十一月の展示替の企画に力を集中していくことが強調されました。賛助会員の拡大についても訴えにこたえ新たに四団体十人余の新加入者を迎えた成果にたち、ひきつづき加入を広く訴えていくこと、原水爆資料室の募金がちょうど目標の半額に達し、もう一段募金活動を強めながら、江東区にたいし改めて設置の交渉を強めていくことなどを決定しました。

秋晴れの文化祭・福竜丸も活躍

—三つの高校を訪ね歩いて—

九月十月は各学園で文化祭がひらかれます。展示館にも文化祭の企画に原水爆問題についての展示をおこなうので、ぜひ資料を貸してほしいと数校が訪れました。展示館内を熱心に見学しいろいろな企画を練る高校生、核兵器廃絶が昨年より高まっていることを裏づけているようである都立戸山高校、江戸川区にある都立戸山高校、江戸川区にある都立江戸川高校へ行ってきました。

好評だった福竜丸の写真展示。訪問日は九月二十六日、久しぶりに晴れた日曜日です。町田市にある都立町田高校、新宿区にある都立戸山高校、江戸川区にある都立江戸川高校へ行ってきました。

原爆投下直後の広島島の荒れはてた街のパノラマと「第三次世界大戦勃発」の年表が印象的だった町田高校、一年六組の「戦争と平和」の展示コーナーには母親や子どもの姿が目につきました。原爆写真・東京大空襲展や、「人間をかえせ」「予言」の上映もおこなわれ、見学者は熱心に見入っていました。

戸山高校は一年の二クラスが原水爆問題の展示会場を設けて

いました。「幻核」・「あとみつく・ぼむ」の二つの会場は教室いっぱいになり、原子力・核兵器とは何かその構造、ヒロシマ、ナガサキの原爆の被害、反核運動について等、書き綴られた模造紙がはりめぐらされ、読んで知ってもらうことに重点がおかれていたようです。第五福竜丸の歴史やビキニ水爆についての説明もしていただきました。目をひいたのは広島に投下された原子爆弾・リトルボーイの実物大の模型でした。

町田高校、戸山高校とも戦争、核兵器に対する意識調査を学内でおこなった結果報告を表にあらわしてあり、高校生が現存の実情をどうとらえているかがよくわかりました。

江戸川高校の二年八組の「反戦・反核」は、真の「平和」について考えさせられるコーナーを設け、その一画に第五福竜丸の写真パネル八点とともに福竜丸の歴史と原水爆運動のあゆみがわかりやすく展示されていて父兄が熱心に見ていました。

また長野県の箕輪工業高校から文化祭の様子を伝える手紙が届きました。二学年・五クラスが統一してとりくんだ「平和展」は、実際の原爆がわらわらと工業科の生徒たち製作の溶解がわらの対比展示をはじめ、原水爆反対の最初の署名簿や福竜丸パネルも見学した人の評判が良かったことなど記されていました。

今後このような展示が各学園でとりくまれることを願っています。



●核世界の先端 マーシャル諸島

<8>
文・写真
島田興生

島に残っている十九人の被ばく者は、男十一人、女八人。一九五四年、三カ月の胎児で母親の胎内で被ばくしたスーザン・ネットさんが一番若く二十八歳。二十代が四人、三十代二人、四十代一人、五十代七人、六十代二人、七十代二人。最年長は被ばく当時五二歳だったアビア・アンジャインさんで

現在八十歳だ。被ばく者たちは島の社会の中で、中高年齢層を形づくっている。
島の日常の生計手段は、ヤシの実を採取し、乾燥して出荷する「コプラ」作りと、魚とりだ。どちらもかなりの重労働なので、二十代、三十代の数人を除いては、被ばく者たちで直接これらの仕事に



中央の5才の女の子は、同年同月生まれの子より15センチも背が低い。母親(左)とハワイの米軍病院で診察を受けたが、原因不明。今まで聞いたことのない病気や障害がその後も偶発している。(’81年10月、ロンゲラップ島)

タッチする者はいなかった。五十歳になるボアス・ジェイランさんは、ヤシ林から村まで、コプラを運ぶトラックの運転を手伝ったりして、協同作業のコプラ作りにかろうじて協力している。
ロンゲラップでは家族がまるごと被ばくした例が多いが、ボアス一家もその厳しい一例である。ボアスさんと妻のエレンさん、五人の子ども、両親、妻の父親、ボアスさんの兄ら十一人が被ばくして、両親は被ばく後九年以内に死亡している。また、娘のエルミタさんはグアムで甲状腺摘出手術をうけ、息子のエリオさんは甲状腺ホルモンを終生補給しなければならぬ。
私が行なった健康状態のアンケートで、ボアスさん自身も、食欲不振、眼まのたるみ、足腰・関節の痛みを訴えていた。

- 第二回久保山忌句会作品抄
- 忌日の菊ガイガー鮪も雨降りお 太穂
 - 遺言碑に涙痕となる秋の雨 いさお
 - 碑に献花久保山忌の木場雨一望 あきら
 - 鶏頭の雨滴炎のめく被爆遺影 せつ子
 - 久保山忌遺る大漁旗の波頭 畔人
 - ユーカーの葉ずれに沈む灰の船 文字
 - 靴音なき靄色の船尾久保山忌 花猿
 - 秋の雨ささくれ被爆の方向舵 喬
 - 油臭いまだ被爆を継げり久保山 河石
 - 霖雨の苑被災の船のかまど見て 真樹
 - 福竜丸見てえんまこおろぎ 梨男
 - しりもちをつく せつ子
 - りんどう炎めく錨一塊被爆船 貞夫
 - 船底もケロイド折鶴の房さざなみ 貞夫
 - 海に戻れない船鶏頭のつぶやけ 道風

来館者の 声から

私はここにくるのがはじめてなんですけど、はいる時はどういふものがあつたのかわからなかった。水爆のおそろしさを感じた。こんどくるときは船の中もみたいと思います。 Y・T

戦争のすごさを感じました。私たちが生きている間、ないというほしうもない戦争、広島長崎といろいろな戦争やげんばく……どうしようもない事実です。でもこれからは、あつてはいけないことなのですね。ぜったいに……。二度と、多くのぎせい者や、今もくるしむ人たちをださぬように、また、その人たちのことを考えたら戦争というものはおこらないでしょう。私はそう思います。 ルミコ

私には久保山さんという人も

ふねのこともわからないが、むかしはたいへんだったんだなという気がする。 T・K

「とびうおのぼうやはびょうきです」を読んで、あと書きまで第五福竜丸が、この夢の島に保存されていることを知りました。休日を利用して、大阪からやってきました。ゴミの中にうめれ解体されそうになっていた第五福竜丸を保存しようと運動された方々に、ありがとう、と言いたいです。原爆・水爆、又、原発のこわさを子供におしえていきたいです。 M・K

戦争のこわさとかなしさの勉強をしていますが、その本よりこっちのほうが何十倍もかなくこわいです。 M・K

勤務中、立寄りました。この様な場所に有ることを今日初めて知り、見学させてもらいました。当時の新聞で読んだ時より感動させられました。私、当時四二才、息子十三才、十才――

この雨の中で第五福竜丸をみてよかったです。 *

是非、妻子を連れて来て家族と話し合いたいと思います。永い歴史のページを見るにつけ、未来の展望を見せつけられたように思います。今後、このようないことがないように私個人そして人々とともに。 *

私は、今日で二回目です。さしよ見えた時は、ずいぶんぼろいと一目見て思いました。ふねの中にあつた、むせんきや、ベッドほかにもいろいろ船の中にあつた物が今でものこっているなんてふしぎだと思えます。もう、二どと戦争なんておきないようにねがいたい。日本はよいように強いんだから。平和な国であるように。 H・F

九月二六日、私は久保山さんのげんすいばくのひがいがは、わたしを最後にしてほしいという言葉が心に、じんときました。 *

この雨の中で第五福竜丸をみてよかったです。 *

編集後記

▼九月二九日、「世界は恐怖する」という記録映画をみた。ピキニ水爆実験による福竜丸被爆から三年後に製作されたこの映画は「死の灰」を科学的に解明し、放射能のもつ悪魔の部分を私達におしえるそのものであった。放射能の性質や影響を追求するために、鳥やネズミ等の生きものが実験の犠牲となり次々と死んでゆく。死ななくてもみにくい形となってあらわれる。 ▼目に見えない正体もつかめない放射能は核実験により大気中にどんどん蓄積され、私たちの体の中に入り込んでいく。私たちは空気を吸うこと食物を食べることを拒むことは決してできない。ネズミや鳥の死は何を意味しているのかわからぬ。

▼地球や人類の運命はと深刻に考えさせられる映画だった。反核運動は高まっている。しかし一般の人は興味を示さないと高校生は語る。このギャップを埋めるのは今しかない。(も)